

【地域防災講座】

公民館 de 防災

～日頃の「備え」を一緒に確認しませんか～

いつ来るかわからない災害に対して、皆さんはどんな「備え」をされていますか。スタンプラリー形式で各ブースを回り、防災への「備え」について一緒に確認しましょう。

親子、子どもだけでも、どなたでも大歓迎！

お気軽にご参加ください。

※イベント詳細はホームページ参照。

とき 12月8日(日)朝10時～12時 ※開催時間中は出入り自由です

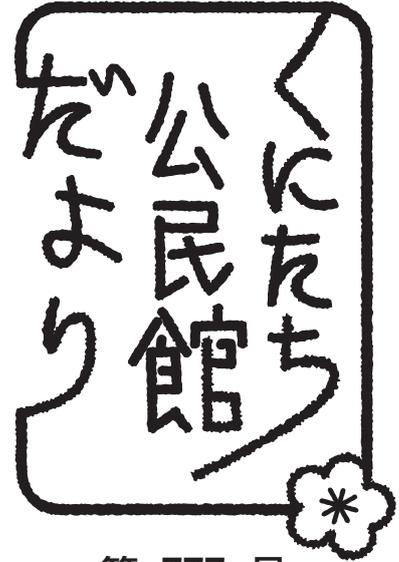
ところ 公民館 地下ホール、1階市民交流ロビー、3階各室、駐車場

定員 150名(当日先着順) ※事前申込不要。

※当日は昼1時頃まで公民館駐輪場は一部利用不可。臨時駐輪場をご案内します。



子ども用消防服を着て記念撮影もできます！



第 777 号

2024年11月5日

(令和6年)

「くにたち公民館だより」
デジタルブック▶



地震・防災のお話と

地震波実験&防災なんでも質問コーナー

講師 小野 修平

(ジョージ防災研究所防災アドバイザー)

家庭での「備え」について考えてみよう！

時間 ①朝10:30～

②昼11:15～

※①と②は同内容です。

災害時の水とトイレ

講師 田中 友統ともりのり
(ニッポー設備災害支援隊)

「トイレマニア」の田中さんから、災害時のトイレ対策について聞いてみよう！

クイズ ①朝10:10～ ※①～③は
②朝10:55～ 同内容です。
③昼11:40～

水消火器体験、 消防車との記念撮影！

講師 国立市消防団第六分団

公民館の駐車場で消火器の使い方を体験しよう！火事にならないように気を付けること、知ってるかな？

子ども用消防服を着て消防車と記念撮影もできるよ！

水消火器訓練の様子



防災カフェ

お困りごと相談と防災グッズ展示
防災備蓄のフードロスの取組みと
アルファ米アレンジの炊き出し

企画 ちいきエナジー
NPO法人フードバンクくにたち

毎月市内で実施の「防災カフェ」。
お困りごと相談や防災グッズについて聞けます。アレンジ炊き出しもお楽しみ！

防災クイズ

企画 国立市社会福祉協議会
国立市ボランティアセンター

災害ボランティア活動をご存知ですか？防災に関するクイズに答えながら、防災マスターになろう！

ポリ袋クッキング！
みんな大好き！蒸しケーキを作ってみよう！

企画 KUNIBO
(くにたち地域外国人のための防災連絡会)

災害時に便利！ポリ袋を使って簡単にできる調理法を体験！
※試食もできます。なくなり次第終了。

いざというときのための AED 体験

講師 国立市消防団女性団

いざというときのために、AED操作の体験をしましょう。

三角巾で応急処置をするには？

講師 国立市赤十字奉仕団

被災時の応急救護は大事なスキル！習得して家族でやってみよう！

国立の防災について知ろう！

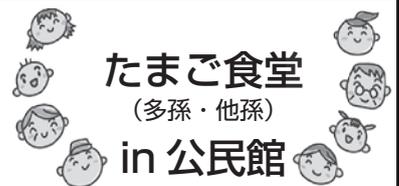
講師 国立市防災安全課

防災マップで、自宅周辺を見てみよう。

手洗い実験と災害時の健康管理

講師 国立市保健センター

災害時の衛生や健康について学ぼう。



たまご食堂

(多孫・他孫)

in 公民館

企画 なかなかいい会

時間 昼11:00～

(整理券配布10:30～ 80食限定)

子ども：無料、大人：300円

中地域で月2回開催の子ども食堂が公民館に出張します！

メニューは定番で人気の手作りキーマカレー!!お楽しみに♪

～たまご食堂は困った時に頼れる地域の居場所として、災害時には食の拠点として皆さんと共に～

〈協力〉NPO法人フードバンクくにたち／国立市社会福祉協議会／国立市消防団女性団／国立市消防団第六分団／国立市赤十字奉仕団／国立市防災安全課／国立市保健センター／国立市ボランティアセンター／くにたちの西がいちばん！プロジェクト／KUNIBO(くにたち地域外国人のための防災連絡会)／公民館利用者連絡会／ジョージ防災研究所／ちいきエナジー／中一番組自主防災／なかなかいい会／ニッポー設備災害支援隊 (五十音順)

【特集：くにたち人権月間】 2023年度実施事業の講演記録の要旨

ドキュメンタリー映画『ある精肉店のはなし』上映会と

北出精肉店店主 北出新司きたでしんじさんのおはなし (2023年11月15日実施)

国立市では「人権週間」(12月4日から10日)にあわせて、毎年11~12月に「くにたち人権月間」を開催し、人権をテーマとした様々なイベントに取り組んでいます。

今回は、国立市公民館が昨年度実施した講座の講演記録を紹介します。



講師の北出新司さん

■屠畜への差別

僕は大阪の貝塚市、人口9万人の町で生まれ育ちました。東洋の魔女でご存じかな。バレエボールの町です。

本日上映の映画は平成25(2013)年公開、今年でちょうど10年。2年かけて作られました。この映画をどう捉えるか。家族の模様とか、差別に抗う組織の話とか、また、地域の文化とか、色々な捉え方ができます。

僕は昭和28(1953)年生まれで来年71歳。当時はきつい職業差別がありました。父は大正8(1919)年生まれ。学校に行っていないから自分の名前すら書けない人でしたが、商売をしていたので計算はできた。凄い人でしたが、酔ったら僕や姉、あるいは母を引きずり回すような酒乱でした。25年程前に亡くなりました。そんな父の背中を見ながら育ちましたが、一番苦労したのは母親。やっぱ女性が一番苦労したと思います。

屠場の「屠」は「ほふる」。屠

殺は「ほふって殺す」。屠畜や食肉に対しての差別や偏見はまだあります。年配の方は自分の心を振り返ってみたら、おわかりになるのではないのでしょうか。

映画で取り上げた屠場は日本で一番小さな屠場。日本で一番大きな屠場、品川の芝浦屠場ができたのは昭和11(1936)年。同じ頃、貝塚に在日朝鮮人部落ができて、70mほど離れたところに作られたと聞いています。

日本で一番小さな屠場を映画にするなら一番大きな屠場に行こうと、芝浦屠場を見学しました。1日に牛を430頭、豚は3ラインで700頭ずつ、2100頭処理する。それを冷蔵庫で冷やして翌日の市場で取引する。芝浦と大阪南港の屠場が中央食肉卸売市場で、その取引単価によって日本の牛や豚のだいたいの値段が決まります。

屠場で働く人たちは皆必ず偏見を持たれてきたと言います。僕の家の前を自転車で通過する高校生が「あそこを通るときは注意しろ。気いつけや」と言っていく。この地域は荒くれ者がいて何されるかわからないと、家族から言われていた。やはり歴史性がある。それを真に受ける子どもたちがいる。これは何とかしないといけない。

大阪府地図



ある精肉店のはなし

監督 瀬藤あや プロデューサー 本橋成一 撮影 大久保千津奈

配給 やしほ映画社、ポレポレタイムス社
製作年2013年 上映時間 108分
【あらすじ】

大阪府貝塚市で代々、育てた牛を食肉処理し、販売するまでを一貫して手がける一家を、あたたかなまなざしで見つめたドキュメンタリー。家族4人の息の合った手わざで捌かれた牛は丁寧に切り分けられ店頭と並ぶ。皮は丹念にぬめされ立派なだんじり太鼓へと姿を変えていく。にぎやかに穏やかに暮らす一家の心には被差別部落ゆえのいわれなき差別を受けてきた父の姿がある。差別のない社会にしたいと、地域の仲間とともに活動するなか、自分たちの意識も変化し、地域や家族も変わっていった。

いのちを食べて人は生きる。「生」の本質を見続ける家族の記録。



映画ポスターにも使われた屠場での写真(左端が北出新司さん)

公式ホームページはこちら



地域の若者たちががんばって学習し、あちこちで正しい話を伝える努力をしています。

■自分のルーツ

大阪府下の農業高校に進学して「水平社宣言」※に出会いました。「ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥取られ」「暖かき人間の心臓を引裂かれ」という文章に出会い、初めて「これが自分のルーツなんだ」と感じました。ここにいる一人一人、みんな自分のルーツがある。両親がいて、

※「水平社宣言」とは

大正11(1922)年3月3日に被差別部落の人々が差別からの解放を目指して創立した「全国水平社」の創立大会で読み上げられました。

長く不当な差別を受けてきた人々の痛切な思いとともに、すべての人が差別を受けることなく、人間らしく生きていける社会の実現を願う気持ちが込められています。

牛の皮が太鼓に生まれ変わる



たい、おいしい肉を作りたい。でも、生きている牛を精肉にするこ
と自体、牛にとっては苦痛を伴う
ことだと思っからこそ、ノッキン
グペン一撃で、苦痛を感じないよ
うにやるのがプロとしての仕事だ
と思う。逆に一撃で倒さないと修
羅場になる。牛に引きずられる、
そういう経験もしながら、恐ろし
い牛に向かっていくんです。でも
牛の命は一つだから、食べる側は
しっかりといただかないといけない。
色々な意味で人の命をつなぐとい
うこと、僕はそれを子どもたちに
伝えたい。

■太鼓製作という文化

弟がやっている太鼓の皮の張り
替え。江戸時代、鳴村には3軒の
太鼓屋があったけど、子どものこ
ろには1軒だけに減っていた。

日本の太鼓文化は被差別の民が
作ったもの。また、墨字の墨、奈
良時代に書いた墨の字が消えない
のはカーボンにニカワで固めてい
るからで、それは牛の皮を煮詰め

たもの。ニカワを作ったのは被差
別の民。正倉院の文箱や国宝の琵琶
もニカワでくっつけている。こ
れは、湯で戻したら溶けてバラバ
ラになってもう一度組立て直せる
優れた接着剤。奈良時代以前から
人間が経験則として会得したもの
がニカワ。太鼓の皮は牛の皮で
きている。太鼓がなかったら、盆
踊りも祭りも始まらないよね。
岸和田市はだんじりの町。大和
川以南には500台のだんじりがある。
盆踊りも河内音頭も江州音頭も、
祭りのときには太鼓を叩く。日本
の文化を支えてきたのも作ってき
たのも、被差別の民。彼らがちゃ
んと食べていける、生きていける、
汗をかいている人たちがちゃんと
生きていけるシステムを作るのが、
政治の役目だと思っんです。

■平和をつなぐ教育

教育がやっぱり一番大事。臭い
の問題がはじめにつながったりす
る。大阪では、小学校は広島に、
中学校は長崎か沖縄に修学旅行で
行く。そして、その地域で生きて
きた語り部から、それぞれの経験
も含めて話を聞いて、戦争は駄目
なんだと肝に命ずる、そういう人
権教育、平和教育を定着させてい
ます。平和が人権問題で一番大事。
今も様々に紛争がある。もちろん
歴史性があるから一概には言えな

いけれど、最後に命をなくすのは
子どもや高齢者、女性。皆さんが
声を上げるしか方法はない。暴力
を暴力で返しても意味はないので
す。
僕の好きな小説『橋のない川』
で、主人公の友人が「俺らを差別
するんやったら、あいつどついた
る、殴つた」と言っんですが、
主人公は「勉強したる」と。差別
がどこから始まっているか、理屈
も含めて学習することが平和の実
現、差別をなくすことにつながる
のだと思っます。
かつて日本も戦争をしていて広
島と長崎に原爆が落ちた。でも、
それ以前から日本の軍国主義はあ
る。これをどう考えるか。人が生
きることを中心に物事を考えるの
が大事で、その基本はやっぱり平
和。人権が大事にされていくこと
そして、やっぱり働くことだと思
う。
色々な所で色々な人が仕事とし
て関わる。だからどの仕事が一番
ではない。つながりの中で自分は
生きていく、生かされていること
を感じるべきだと、子どもに伝え
ることが教育の役割です。
僕は差別の問題は地域の問題と
して自覚していたけれども、水平
社宣言の「ケモノの皮を剥ぐ報酬
として」という一文を読んだとき

くにたち人権月間2024

11月10日(日)~12月10日(火)

詳細は市報くにたち令和6年11月5日号をご確認ください。

公民館で開催する人権講座

里親家庭の物語

—いろいろな家族のカタチ—

日本では認知度の低い里親制度をより身近にしていくな
ために、里親家庭の実際や喜怒哀楽に満ちたエピソードを紹介し
ていただきます。

講師：三輪 清子 (明治学院大学)
とき：11月7日(木)夜7時~9時
ところ：公民館 3階集会室
定員：25名(申込先着順)
申込先：電話またはホームページより申込



鳥肌が立ちました。やっぱり差別
されてきたんだ、と同時に、差別
されながらも差別してきたこと、
在日朝鮮人を差別してきたという
歴史も確かにあって、これを理解
することが大事と思っています。
今日は、大阪の端っこ、日本
で一番小さな屠場を閉めるにあた
ったきました。映画を見て心に残
ったことを、子どもや孫に伝えて
ください。
最後に、肉や屠場で働く人を差
別するなら、お前ら肉食うな！と
言って終わります。
(完)

講座記録(カラー写真
版)はホームページで
も公開しています。



当日は市内外から約80名が参加されました

〈阪神淡路大震災から30年〉
「救援・災害ボランティア」の役割と経験
 —「ボランティア元年」となった大震災をふり返る—

お 話 ^{たかさこ}高砂 春美 (兵庫県災害救援専門ボランティア
 コーディネーターなど/当時：神戸市東灘区魚崎
 小学校復興対策本部長)、^{そとに}曾谷 真由美 (天本病
 院看護師)、^{よしかわ}吉川 文隆 (国土館大学防災・救急
 救助総合研究所嘱託研究員)

コーディネーター 兼松 忠雄 (元国立市職員)

来年1月、阪神淡路大震災から30年を迎えます。広範囲
 に大きな被害をもたらした震災があった1995年は、後に
 「ボランティア元年」と呼ばれ、救援や復旧、復興活動に
 関わったボランティアが全国から集まりました。他方、国
 立市からも延べ100名近い若者が神戸市で救援ボランティ
 アとして活躍した、ということはありません。

そこで、今回は国立市からの救援ボランティア活動のベ
 ースとなっていた神戸市東灘区魚崎小学校の現地本部長だ
 った高砂さんを講師にお迎えし、また、当時国立市から救
 援ボランティアとして駆けつけた方々にも、災害ボランティ
 アの経験とその後をお話いただきます。今も繰り返され
 る自然災害を前に、改めて災害ボランティアの役割を考
 えたいと思います。

と き 12月7日(土) 昼2～5時
 ところ 公民館 3階講座室
 定 員 30名(申込先着順)
 申込先 11月12日(火)朝9時から電話
 またはホームページより申込。



〈親子で遊ぼう・考えよう〉
ブラックライトで暗闇アートを楽しもう

講 師 山田 修平
 (NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

ブラックライトで光る絵の具で絵を描いたり、お面を作
 ったりして楽しめます。暗闇で光るアートを親子で楽し
 ましょう。目に負担がかかる活動となります。ご理解の上
 ご参加ください。

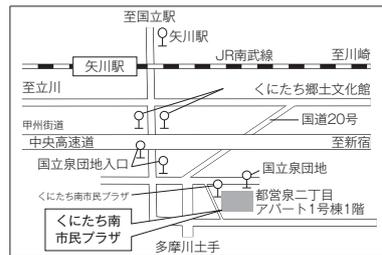
と き 11月24日(日)朝10時～11時45分
 ところ 南市民プラザ 多目的ホール
 持ち物 飲み物、汚れてもいい服装

※UVカットのサングラスがある方はお持ちください。
 対象・定員 子ども(4歳から小学生)と保護者14組(家
 族単位です)

※応募者多数の場合抽選
 申込先 11月12日(火)夜9時までの間に、
 ホームページより申込



■南市民プラザへのアクセス



* JR南武線矢川駅より徒歩
 15分
 * 立川バス「国立泉団地」
 バス停下車1分



中高生のための学習支援「LABO☆くニスタ」 参加者募集中!

公民館では市内在住・在学の中高生を対象に、学習支援
 事業「LABO☆くニスタ」を開催しています。

ここでは、教えて欲しい教科や、わからない宿題を大学
 生がサポートします。「勉強のわからないところを聞きたい」
 「1人で勉強するより誰かと勉強したい」「大学生と話
 してみたい」……そんな中高生の居場所です。

また、市民の方からいただいたお菓子や、市内の社会福
 祉法人「多摩棕桐亭協会 ピアス」さんからいただくお弁
 当を食べながら、交流する時間もあります。

ご興味のある方は見学だけでも大歓迎ですので、お気軽
 に公民館にお問合せください!



1人で参加している中高生も多くなります! まずは気軽に見学を!



年に1～2回、お楽しみ会も開催しています。
 この夏は流しそうめんや花火を行いました!

と き 月3回程度 水曜日 夜6時～8時
 ところ 公民館 地下ホール
 申込先 電話で公民館へ

(学習支援「LABO☆くニスタ」担当まで)

〈今後の開催予定〉

2024(令和6)年
 11月13日、20日、
 12月11日、18日、25日
 2025(令和7)年
 1月15日、22日、29日
 2月12日、19日、26日
 3月12日、19日、26日

中高生をサポートする
 大学生も募集中!
 ご興味のある方は以下申
 込フォームよりご連絡をお
 願います。



公民館の緑化絵日記



▲みかん

公民館の裏庭では今年の秋もマリーゴールドが美しく咲き、木にはみかんがなりました。



▲マリーゴールド

公民館にお越しの際は、季節の変化をお楽しみください。

公民館の緑化活動に参加しませんか

公民館の植木の選定や、草花の手入れは緑化ボランティアのみなさんに行っています。

活動にご興味のある方、協力していただける方は公民館までご連絡ください。

くにたちブッククラブ
—たしかにそこにいた「わたし」のこと—

河林満『渇水』(角川文庫)

講師 佐藤 泉 (青山学院大学・日本近代文学)

この講座では、課題図書のご感想を全員で共有し、講師の方から解説をしていただきます。課題図書は、毎年参加者と講師、職員が話し合って決めていきます。他の回に出席された方はもちろん、今回だけのご参加も大歓迎です。

とき 11月14日(木)夜7時半～9時半

ところ 公民館 3階講座室 ※昨年度と部屋が変わります。

定員 30名(申込先着順)

申込先 電話またはホームページより申込



※年間予定など詳細はホームページを参照

くにたち デジタルブック

デジタルブック
くにたち



過去の公民館だよりをご覧になりたい方は、『くにたちデジタルブック』もご活用ください。

国立市デジタルライブラリー

検索

第69回 くにたち市民文化祭

11月24日(日)まで開催中 !!

10月12日(土)より第69回くにたち市民文化祭が開催中です。11月も個性豊かな催しが数多く企画されていますので、ぜひお越しください。

みんな集まれ国立へ
咲かせよう文化の花

第69回 くにたち市民文化祭
令和6年10月12日(土)～11月24日(日)

場所と催し物
公民館：総合美術展(絵画・写真・手工芸・書)、いけ花展、結露展、書道展、市民茶会、フルート・ガムラン、シャンソンカンフォース、話し方勉強会、卓球、趣味ショー、動物保護、シンポジウム、ピースリーディング、国際交流
養小ホール：芸術フェスティバル、合唱、ギター
福祉会館：国際茶会

文化祭ホームページは市内各施設での配布のほか、公民館ホームページからダウンロードできます。



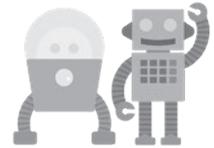
開催日	催し物
11月5日(火)～11月10日(日)	第52回くにたち絵画グループ展
11月9日(土)	第24回 日本語学習者によるスピーチの会
11月9日(土)	くにたち話し方勉強会公開講座
11月10日(日)	フルートアンサンブル「桜音の会」コンサート
11月14日(木)～11月16日(土)	プラムジャム「ごぜん塾」&夢と笑顔の書道勉強会
11月16日(土)	みんなでトーク 公民館は何をしてきたのか何をするとどこか ～公民館70周年を前に～
11月16日(土)～11月17日(日)	〈伝統文化のひろば〉合同いけ花展
11月16日(土)、11月17日(日)	国際文化交流会 楽しい韓国語
11月17日(日)	第23回国際茶会
11月17日(日)	芸能フェスティバル
11月17日(日)	ハートヴォイス 歌を楽しむワークショップ
11月17日(日)	クラシックギターアンサンブル くにたちギタークラブかなで第4回定期演奏会
11月17日(日)	「US 星人がやってきた～平和憲法崩壊～」
11月17日(日)～11月23日(土・祝)	ポスターセッション
11月22日(金)	こぎつねの会 朗読会
11月23日(土・祝)	〈伝統文化のひろば〉第44回市民茶会
11月23日(土・祝)	かのこ着物がたり-Kanokoの軌跡-
11月23日(土・祝)	くにたち国際友好会 WINGによる国際理解講座
11月24日(日)	バリ・ガムラン演奏会とワークショップ

来年度、保育を希望するグループは お知らせください

子育て中でも、一人の大人として仲間と学びあいたい。そう思っている方の公民館での継続的な活動を保障するために公民館保育室があります。公民館保育室では保護者の学びを支えると共に、子どもにとっても育ちの時間となるよう、保育者と子どもの関係づくりを大事にしています。限られた設備・体制のなかで、保育者・子どもとも、同じ曜日に同じメンバーで継続して通うことで、子どもと保育者との信頼関係を醸成し、子どもの豊かな社会生活、成長の場となることを目指して保育室を運営しています。

公民館で活動している市民グループに継続的に参加する場合に限り、活動時間中に公民館保育室で保育を行います。来年度(2025年4月～)保育を希望するグループ、考えているグループは1月末までに公民館へご相談ください。

〈開室時間〉
火曜日～金曜日 朝10時～12時
など



〈要件〉

国立市内在住の就学前の子ども。毎週火曜日、毎週水曜日というように定期的に通えること。
*詳細は公民館へお問い合わせください。
公民館 ☎042 (572) 5141

ひろば

(8ページにもあります)



ギターアンサンブル会員募集!

「かなで」はクラシックギターで合奏、重奏、独奏を楽しんでいます。お気軽にお越しください。会費は無料です。合奏の経験のない方もどうぞ。

日時 毎週日曜日 昼1時～5時
場所 東福祉館・公民館等
連絡先 石井090(8509)6705

フルート会員募集「桜音の会」

秋の市民文化祭での演奏会に向けて、一年かけて曲を仕上げたいです。フルートの好きな方、私達と一緒に合奏を楽しみませんか?

日時 第2・4火曜日 夜6時
場所 富士見台地域防災センター
連絡先 橋本090(7178)6380
メール fukkyassy@gmail.com

楽しく歌おう「ひまわりの会」

指導者はピアノリストで、表現豊かな演奏で参加者を曲の世界へと誘います。歌う楽しさを感じさせられます。童謡、唱歌、日本や世界の名曲を歌います。来たれ!!

日時 第2・4水曜 朝10時
場所 北市民プラザ多目的ホール
連絡先 新里042(577)1062

歌サークル「すみれの会」

季節の歌や童謡・歌謡曲などを素敵なピアノ伴奏で歌うサークルです。一緒に楽しく歌って晴れやかな気分にご参加ください。

日時 第2金曜朝10時～11時半
場所 南市民プラザ多目的ホール
連絡先 川端050(5858)7579

くになち話し方勉強会

毎回、近況を告げる一分間のショートスピーチから始まります。話し方を通じて自分を磨きたい人達の集まりです。一緒に話す事聞く事の勉強をしてみませんか?

日時 第2・4(土)夜6時半～8時半
場所 公民館 講座室
連絡先 中浦042(577)5125

—1月分(ロビー2月分)の 会場調整会のお知らせ—

申込書のポスト投入期間	11月2日(土)～28日(木)
公用使用の貼り出し	11月12日(火) (11日以降の休館日を除く最初の平日)
予約の重なりがあった団体の掲示開始日 (国立市 HP にも掲載)	11月30日(土) ▶重なり状況 
会場調整会	12月7日(土)朝10時～

※会場調整会当日は朝10時までに受付してください。

公民館運営審議会報告

10月8日(火) 第34期第24回定例会を開催。委員15名、館長、職員2名出席。傍聴人2名。

前回議事録確認 議事録修正あり。

報告事項

公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会より報告あり。

10月26日(土)に西東京市柳沢公民館で開催予定の東京都連絡協議会委員会主催公開研修会について説明があり、参加希望の委員は締切期日まで事務局に申し込むこととした。

審議事項

館長諮問「公民館の運営や事業に『市民の声』を活かしていくための方法や工夫について」の答申案の前回以降の修正について確認し答申文を確定した。その後、委員長より館長に答申文を提出した。また、12月発行予定の「くになち公民館だより」に掲載する「第34期公民館運営審議会活動のまとめ」について文案を最終確認し確定した。

公民館運営審議会活動の振り返り(今期の成果、次期への課題、今後への期待)を、委員全員が行なった。

次期第35期第1回定例会は11月12日(火)夜7時15分から講座室。傍聴歓迎。(矢野)

ひろば

(7ページにもあります)



フットサルチーム「ソラーナ」

市内で活動中の男女エンジョイサークルです。10代〜60代まで幅広い年代で毎週汗を流しています。熟練指導者によるサポート有り。お気軽に体験等からご連絡下さい。
日時 毎週日曜日 昼3時〜6時
場所 市内小学校体育館
連絡先 磯080(358) 6711

和弓をひいてみませんか!

和弓は姿勢を良くし、集中力を養い誰にでもできるスポーツです。初めての方も会の道具をお貸しします。会費一回500円。詳細は夜6時後電話を。くにたち弓友会
日時 毎週(土)又は(日)の午前中
場所 昭島市弓道場(東中神駅)
連絡先 長谷川042(576) 1489

人物画の会26回展覧会

20人が約80点の人物画、その他を展示いたします。作家は絵をみて頂くと共に、皆様とのお話を楽しみにしています。是非おこしください。14日は休館日。
日時 11月10日〜16日朝10〜夕4時
場所 芸小ホール ギャラリー
連絡先 榎本042(571) 0385

第四十三回 北文化祭のご案内

作品展: 絵画、写真、書道、彫刻、陶芸、手工芸品など
模擬店: 古本市・美味しいものや掘り出し物が一杯※食品の販売は16日(土)に限りです。
日時 11月15日(金)〜17日(日)
場所 北福祉館(北2-19-1)
連絡先 緑川080(6679) 3948

「すつっき」30周年のついで

「必要な人に 必要なとき 必要なケアを」と市民が始めた地域福祉のNPOです。設立30周年を記念して、マンドリン演奏を楽しむひとときを一緒に! 無料
日時 11月16日(土) 昼1時
場所 福祉会館 4階大ホール
連絡先 事務局042(576) 3206

おとこの台所国立 会員募集

初心者・高齢者大歓迎。男が集まり・作って・食べる。わいわい・がやがや・一緒に楽しませませんか?費用は500円。持ち物はエプロン・バンダナ・布巾・タオル
日時 11月24日(日) 朝10時
場所 公民館 実習室
連絡先 別府080(3728) 9640

今月の公民館 (11月~12月)

- 11月7日(木) 夜 くにたち人権月間2024・人権講座
「里親家族の物語—いろいろな家族のカタチ—」
- 9日(土) 昼 平和講座
「家族たちの戦争②総動員の戦時下と『美談』」
- 14日(木) 夜 ブッククラブ 河林満「湯水」
- 24日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう
「ブラックライトで暗闇アートを楽しもう」
- 12月7日(土) 昼 阪神淡路大震災から30年
「救援・災害ボランティア」の役割と経験—「ボランティア元年」となった大震災を振り返る—
- 8日(日) 朝 地域防災講座
「公民館 de 防災〜日頃の『備え』を一緒に確認しませんか〜」

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問合せください。
公民館 ☎042(572) 5141

講座等の案内▶



〈サークル訪問397〉 持ち寄り朗読サロン

この4月に少数でスタートしたばかりのサークルだ。「幅広い世代で、声を出して文字を読み、各人の持参する文章から感性を刺激し合い共有の時間を楽しむ」そんな場を地域に作りたかったと、主宰者の滝知子さんは語る。

取材日には初参加者がいたこともあり、簡単な自己紹介をし、持ち時間を調整し朗読が始まる。その後、選んだ理由を話し、感想や意見を述べ合う。

今回は、和田秀樹さんの新書「この国の冷たさの正体」、山口瞳さんのエッセイ「男の作法」、メンバー本人が書かれた随筆「心に残る言葉」、鈴木ユリイカさんの詩「生きていく貝」など多様だ。

「前の月の回で、『悩まない』という参加者の生き方に刺激を受け、今回はこの本を選びました」「物語を読むと時間を忘れてしまうため、今は短いエッセイを読んでいきます」「難病で亡くなった同僚との思い出を、当時作品にしたので本日はそれを持ってきました」「好きな詩を共有できたらとこれに決めました」と選択の動機もさまざま。

朗読タイムでは、各人の声のトーン、語りぶりからイメージを楽しみ合う。声の響きに気持ちも引き寄せられる。そして、率直な感想や意見を展開していく。

お互いに聴き合うなか、「一人暮らしでおしゃべりの時間が少ないので、こんな場所を待っていた」との弾んだ声からは、憩いの場として楽しんでいる様子がかがえる。

朗読とそれに続くメンバーとのやり取りから、おのずと心のアンテナも広がり、次は何にしようかと熱も入ってこよう。出会ったアレコレに思いを巡らすこともあるだろう。ぜひ、朗読したいものを片手に参加してみませんか。参加者募集中です。

日時 第2日曜 朝10時半〜12時
場所 公民館
連絡先 滝080(5436) 6622
〈文・写真 小林 栄子〉



和みながら朗読を楽しみましょう